



家庭ごみ有料化・戸別収集について 地域で勉強会を開いてみませんか？



小平市は、さらなるごみの減量を進めるため、「家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行」を、平成31年4月からの実施に向けて検討するとしています。

「家庭ごみ有料化って？」「戸別収集のやり方は？」「市民説明会には参加したけど、もっと詳しいことを聞きたい」など、家庭ごみ有料化や戸別収集について知りたい方、ご近所にも多いのではないのでしょうか？

そんな市民の声に応えるため、市は、地域に出向いて出前講座を行っています。

実際に参加された方からは、「市民説明会などで質問するのは気が引けるが、小規模の勉強会だと色々聞きやすい」「じっくり聞けるので理解が深まった」などの感想が寄せられています。

また、市は家庭ごみ有料化や戸別収集についてだけでなく、普段のごみ出しやごみの分別についてなど、知りたいテーマに合わせた出前講座も行っています。

ぜひ、自治会や有志の団体など、地域でごみに関する勉強会を開いてみてはいかがでしょうか？

市民意見公募(パブリックコメント)・市民説明会が実施されました

平成29年9月に「小平市家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行実施計画(素案)」及び、小平市のごみや資源の減量と適正処理への方策を定めた「小平市一般廃棄物処理基本計画(改訂)素案」が策定され、これらの素案に対する市民の意見を聴くため、市民意見公募や全12回の市民説明会が実施されました。

市民意見公募や市民説明会で市民から寄せられた意見や質問については、平成30年3月に小平市ホームページにて公開されます。また、今回市民から寄せられた質問や意見を踏まえ、平成30年3月に「小平市家庭ごみ有料化及び戸別収集への移行実施計画」及び「小平市一般廃棄物処理基本計画(改訂)」が策定されます。



このページについて詳しくは、資源循環課(042-346-9535)までお問合せください

集団回収を始めませんか？

家庭から出される新聞・雑誌・ダンボール・ビン・カンなどの資源物を自治会や子供会、マンション管理組合などの地域団体に集めて、資源回収業者に引き渡す**自主的なリサイクル活動**です。

回収量に応じて市から補助金を受け取ることができ、地域活動に活用することができます。**平成28年度は、115団体に平均約139,600円が交付されました。**



食物資源(生ごみ)処理機器購入費補助制度とは？

家庭から出る生ごみの自家処理を促進してごみを減量するために、生ごみ処理機(EMバケツや電動処理機、コンポスターなどが対象)の購入費に対する補助制度があります。

補助率は、2分の1で上限が3万円です。

申請手続きには、補助金交付申請書、請求書兼口座振替依頼書、領収書(申請者のフルネーム、商品名と数量が記載されたもの)と通帳(カードも可)、印鑑をお持ちの上、市役所又は東西出張所窓口で申請してください。申請書と請求書の様式は、市ホームページからもダウンロードできます。

★ごみゼロフリーマーケット

日時:5月27日(日曜日) 午前10時～午後2時
場所:市役所立体駐車場

★30年度のリサイクルきゃらばんの開催予定(陶磁器食器、小型家電、廃食油の回収、フードライブなど)

開催月:7月、11月、1月、3月の午後を予定
場所、時間等詳しくは、市報、小平市ホームページでお知らせします

編集後記

シェア広場取材してきて、ここでは子育ての品物に注目していましたが、今の豊かな社会では、他にもシェアできる品物はたくさんあると思います。物の利用目的や地域単位で、同様なシステムでシェア広場を広げることはできると感じました。例えば、学校の制服や学用品のシェア、リサイクルショップでは買えないもののシェアなど応用はいくらかでも効くような気がします。また、シェア広場の素晴らしいところは、お金のやり取りがないため、売り手と買い手という損得勘定が一切からまないために、相互扶助的なコミュニティに発展する下地が生まれやすいことだと思います。

★この広報誌は、長きにわたり小平市ごみ減量推進実行委員会と市が協働で編集、発行していましたが、この度、小平市ごみ減量推進実行委員会は、平成30年3月の活動をもって終了し、解散することになりました。

この広報誌は再生紙を使用していて、リサイクルできます。資源は有限です。資源再生利用にご協力ください。

Gomi Life Kodaira

ごみらいふ Life

No.51

平成30年3月号(年2回発行)
小平市ごみ減量推進実行委員会・小平市
〒187-8701 小平市小川町2-1333
小平市環境部資源循環課
☎042-346-9535

- *子ども服、ごみにしないでみんなの笑顔 (1面)
- *食物資源循環事業由来の野菜がすくすく育っています (1面)
- *30・10(さんまるいちまる)運動を実践して食品ロスを減らそう! (2面)
- *3Rをあらためて考える (2面)
- *お家に眠っている陶磁器食器や食品はありませんか?? 「リサイクルきゃらばん」を実施 (3面)
- *「ごみ収集の最前線 異常なし!」収集員はこう考える! Vol.2 (3面)
- *ごみ収集車両用マスクが完成しました! (3面)
- *家庭ごみ有料化・戸別収集について地域で勉強会を開いてみませんか? (4面)
- *市民意見公募(パブリックコメント)・市民説明会が実施されました (4面)
- *補助制度の紹介・今後のイベント・編集後記 (4面)

子ども服、ごみにしないでみんなの笑顔

～花小金井南児童館のシェア広場～



着られなくなった子ども服や使わなくなった抱っこ紐などの子育て用品、もう使わないのは分かっていても愛着や思い出があるので手元においたままになっている。処分するのではなく、また使ってもらえたら嬉しい。でも誰が必要としているのかわからない…。もったいないと思いつつ、やむを得ず思い出の品物を処分した経験をお持ちの方は多いのではないのでしょうか？



“シェア広場”とは・・・
花小金井南児童館で木替えの時期に開催されている、子ども服やおもちゃ、子育て用品を譲る広場のことです。

提供された服やおもちゃには、サイズ、柄の特徴や保護者の皆さんの思いが書かれたカードが添えられています。

今はまだ花小金井南児童館だけの開催ですが、他の2館、小川町一丁目児童館と小川町二丁目児童館でも実施を検討しているようです。大事なものをごみにしない工夫、まだまだたくさんあるような気がします。

品物を受け取った方からは感謝のメッセージカードが返されます。顔は知らなくても、同じ児童館を利用して子育てをしている者同士という安心感が品物を通じて伝わっているようです。

食物資源循環事業由来の野菜がすくすく育っています

「食物資源循環事業」で市内の参加世帯から分別収集した食物資源(生ごみ)から作った堆肥が、植物の生育によく効くと好評です。今回、この堆肥を使って野菜を栽培しているFさんに取材しました。



「小平に住んで40数年になります。その頃から、ご近所の方の畑を少し貸していただいて野菜作りをしてきました。野菜を育てるために、土作りをいつも大切にしてきました。落ち葉を集めて堆肥を作ったり、台所の野菜屑をコンポストに入れて堆肥にしたり、ぼかしを作り堆肥に混ぜたりといろいろな挑戦しました。その中で苦労したのは、台所の野菜屑の処理です。虫が湧いてしまったり、そのまま畑に入るとその場がへこんでしまったりと、それはそれは苦労しました。



○「食物資源循環事業」とは、ご家庭の食物資源(生ごみ)を回収して、堆肥としてリサイクルする事業のことです。3世帯以上のグループでご参加いただけます。詳しくは資源循環課(042-346-9535)までご連絡ください。

そんな時に知ったのが、食物資源循環事業です。台所から出た生ごみをバケツに入れて置いておくだけで、回収して、堆肥にして返していただける事業です。家のごみの減量にもなりますし、虫が湧く心配もなく、とてもありがたいです。そして、いただいた堆肥を畑に入れることで、土の中に空気が含まれやすくなり、根の張りが良くなるように感じます。根の張りが良いと、野菜の育ちもよくなり、美味しい野菜ができます。ごみを減らすことができ、美味しい野菜が育つ、まさに素晴らしい循環だと思います。みなさんも食物資源循環事業に参加しませんか。」